

平成22年度 西武学園文理中学校自己評価表

目指す学校像		学園創立の理念に基づき、ホスピタリティマインド溢れるトップエリート育成。		達成度	A ほぼ達成 (8割以上)
重点目標		学校教育活動全般を通じて生徒の知、徳、体のバランスのとれた育成を図る。特に、日常生活面における指導の徹底を図り、自学自習の習慣の強化、情操の向上等により社会から信頼される人格の陶冶を目指す。			B おおむね達成 (6割以上) C 変化の兆し (4割以上) D 不十分 (4割未満)
年度課題			年度評価		次年度への課題と改善策
No.	課題	具体的目標	課題項目の達成状況	達成度	
1	教育活動	学力の向上	授業時間の確保に努め、S時限、確認テスト、補講などを充実させ基礎学力の定着を図った。	B	引き続き継続し、更なる学力向上を図る。
			3年間、6年間の授業進度計画表を全教科で作成し、平成23年度当初の4月に各学年に配布して活用した。	A	進度計画の内容を吟味する中で次年度の改善を加える。
			学力推移調査を用い、各生徒に自分の学力水準を全国レベルで把握させ、学習指導に活かした。	A	データ分析を行い、更に有効な活用を図る。
			家庭学習の習慣を身に付けさせるため、特に定期考査の計画表作成と個別指導を行った。	B	毎日の学習時間を生徒自身が把握できるように工夫し、個別指導に役立てる。
	人間形成	学習だけでなく、多彩な学校行事を通じ、生徒たちに達成感や友人達との協調の大切さを体験させた。クラブ活動では限られた時間の中で、県大会に出場するクラブもあり、生徒の努力と成長が認められた。	A	次年度は、特に委員会活動を充実させる予定である。	
		「総合的な学習(GA)」の計画的な実施と内容の充実を図った。文化祭における展示発表の中で協調性を養うと共に、プレゼンテーション能力などを確実に身に付けた。	A	開校以来の伝統を守ると共に、より充実した内容になるよう努める。	
		挨拶運動(オアシス運動)や頭髪服装指導を通じ、端正な身なりと明るい挨拶のできる生徒たちが増えている。	B	生活指導では、通学バスの乗車マナーなど、さらに向上を図る。	
2	学校としての組織的対応	進路指導部との連携	週1回、中学各学年の代表者と進路指導部の担当者が定例会議を持ち、高等学校卒業時に、自己の目標を実現可能にするための「中学校3年間のグランドデザイン」を作成した。	A	出来上がったデザインの見直し充実を図る。
		保護者との連携	保護者会、授業参観、保護者面談を定期的実施し、年度当初の学校ならびに学年運営計画を保護者に説明し、理解と協力を求めた。またHPでは、保護者連絡欄を必要に応じて更新し、連絡事項の徹底を図った。	A	特に中学校では、保護者との協力が必要不可欠である。更なる充実を図る。
		教育活動の対外的報告	年3回発行の『文理ジャーナル』およびHPの「What's New」欄の更新により、学校行事やクラブ・委員会活動の様子など、学校の様々な活動をタイムリーに報じることができた。また、各学年で「学年通信」を発行し、学年の様子を保護者に伝えることができた。	B	内容の更なる充実を図る。
		学習環境の美化と整備	年度当初より5S運動(整理、清掃、整頓、清潔、躰)を教員研修を含めて推進した。中学校では、教員と生徒が一体となって学習環境の整備、改善に努めることができるよう全員清掃を行っている。	A	日々の生活で5Sが実践できるようにする。
3	教職員人材育成	授業アンケートの実施	生徒による授業アンケートと保護者による学校評価アンケートを実施した。教員一人ひとりの集計結果は各教員が自らの授業改善に役立て、明らかとなった課題を共有し、各教科指導に反映させた。	A	次年度も各教員の力量向上と学校全体の教育力の向上に努める。
		課題設定表の作成と評価	全教員が「年度課題設定表」を作成し、自ら取り組むべき課題を明らかにし、年度末には課題の達成度を各自で評価し、分掌評価、学校評価へ結び付けている。	B	23年度は、教員の効果的な自己点検自己評価の手法にさらに工夫を加えたものを用いている。
		職員研修会の実施	年間を通じ定期的に職員研修を行った。研修は、外部講師または校内担当者に依頼し、「進路指導」「生徒指導」「教育相談」「環境美化」など内容も多岐に及んだ。	A	年間を通じた、より計画的な研修を実施し、資質向上に努める。防災に対しても意識を高める。

平成22年度 西武学園文理高等学校 学校自己評価表

目指す学校像		学園創立の理念に基づき、ホスピタリティマインド溢れるトップエリート育成。		達成度	A ほぼ達成 (8割以上)
重点目標		学校教育活動全般を通じて生徒の知、徳、体のバランスのとれた育成を図る。特に、日常生活面における指導の徹底を図り、自学自習の習慣の強化、情操の向上等により社会から信頼される人格の陶冶を目指す。			B おおむね達成 (6割以上) C 変化の兆し (4割以上) D 不十分 (4割未満)
年度課題			年度評価		次年度への課題と改善策
No.	課題	具体的目標	課題項目の達成状況	達成度	
1	教育活動	学力の向上	授業時間の確保に努め、また各種セミナーも充実させた。	B	引き続き継続し、さらなる学力向上を図る。
			3年間の授業進度計画表を全教科で作成し、新年度版コース別シラバスとして平成23年4月に高校1年生に配布して活用した。	A	進度計画の内容を吟味し、次年度に向けた改善を加える。
			校外模試を定期的実施し、各生徒に自分の学力水準を全国レベルで把握させ、また各種分析を行い、学習指導に活かした。	B	さらに有効な活用を図る。
			校内の自習施設を充実させ、早朝開館と休業日の利用増加を図った。	A	引き続き利便性を高める。
	人間形成	多彩な学校行事を通じ、生徒たちに達成感や友人達との協調の大切さを体験させ、生徒会、体育委員会、実行委員会の活性化にもつなげた。クラブ活動では、全国大会、関東大会に出場するクラブもあり、生徒の努力の成果が認められた。	A	保護者の理解を得て、さらに充実する。	
		「総合的な学習」の計画的な実施と内容の充実を図った。自己探求、進路選択、企業や地域との連携などをテーマとした様々な体験的教育活動を充実させ、また小論文指導を強化した。	A	成果発表の場を検討する。	
		挨拶運動(オアシス運動)や頭髪服装指導を通じ、端正な身なりと明るい挨拶のできる生徒たちが増えた。	B	生活指導では、通学バスの乗車マナーなど、さらに向上を図る。	
2	学校としての組織的対応	進路指導部の改革	教員が、進路指導の様々な手法を研修し、進路冊子「Academic Planning」(1~2年版、3年版)を発刊し、各学年での進路指導に活用した。学年間との連携を深め、情報の共有化を図った。	A	進路指導部の体制強化および各教員の進路指導力の向上を図り、さらなる進学実績の向上を図る。
		保護者との連携	保護者会および授業参観を定期的実施し、年度当初の学校ならびに学年運営計画を保護者に説明し、理解と協力を求めた。またHPでは、保護者連絡欄を毎日更新し、日々の連絡や学年の様子などを伝えた。保護者会(北斗星の会)が主催する講演会や発行する広報誌も充実した。	A	一段と連携を深める工夫をする。
		教育活動の対外的報告	年3回発行の『文理ジャーナル』およびHPの「What's New」欄の更新により、学校行事やクラブ・委員会活動の様子など、学校の様々な活動をタイムリーに報じることができた。また、各学年で発行する「学年通信」も充実し、学年ごとの指導に役立てることが出来た。	B	内容のさらなる充実を図る。
		学習環境の美化と整備	年度当初より5S運動(整理、清掃、整頓、清潔、躰)を教員研修を含めて推進し、教員と生徒が一体となって学習環境の整備、改善に努めた。	A	自然に5Sが実践できるようにする。
3	教職員人材育成	授業アンケートの実施	生徒による授業評価アンケートと保護者による学校評価アンケートを実施した。教員一人ひとりの集計結果は各教員が自らの授業改善に役立て、明らかとなった課題を共有し、各教科指導に反映させた。	A	次年度も各教員の力量向上と学校全体の教育力の向上に努める。
		課題設定表の作成と評価	全教員が「年度課題設定表」を作成し、自ら取り組むべき課題を明らかにし、年度末には課題の達成度を各自で評価し、分掌評価、学校評価へ結び付けている。	B	教員の効果的な自己点検自己評価の手法にさらに工夫を加える。
		職員研修会の実施	年間を通じ定期的に職員研修を行った。研修は、外部講師または校内担当者に依頼し、「進路指導」「生徒指導」「教育相談」「環境美化」など内容も多岐に及んだ。	A	年間を通じた、より計画的な研修を実施し、資質向上に努める。